

お笑い芸人
マサキさん
 さくらだモンスター
 (平16・商業)



まさき●1982年千葉県生まれ、広島県、東京都育ち。専修大学商学部商業学科卒。イベント制作会社に6年半勤めた後、退社。お笑い芸人を目指してワタナベエンターテインメントの養成所へ2011年10月に入所。卒業後、2013年にしょっぴーさんとコンビを結成し、さくらだモンスターとして活動を開始する。「お笑い全日本カップ2018、2019」準決勝進出、「キングオブショートコント」第3回、第4回優勝など賞レースで活躍するほか、MCやドラマ出演など幅広く活躍中。

「バスケの夢がなくなったので、何をやるうかなくて。そういえば、お笑いが好きだな、お笑いをやってみようかなと思って、この道へ進むことにしたんです」

お笑いの世界へ飛び込んだきっかけを軽やかな感じで語るのは、お笑いコンビ「さくらだモンスター」のツッコミ担当、マサキさん。ボケ担当のしょっぴーさんとのテンポある掛け合いが魅力で、数多くのお笑いライブや賞レースに出場するほか、MCとしても活躍している実力

派お笑い芸人だ。

ただ、彼の半生を振り返ってみても、その前半部分には、お笑いの「お」の字も出てこない。

体育会バスケット部ではなく、バスケサークルへ

マサキさんは小学校のときにはじめて「バスケットボール（以下、バスケ）」に夢中になり、高校は広島県の広陵高校へ進学している。甲子園出場常連校である

同校は野球部が有名だが、実はバスケ部も県内上位の実力校だ。広陵高校にスポーツ推薦で入ったマサキさんは、キャプテンも務めている。

「進学先に専修大学を選んだ理由もバスケでした。体育会バスケット部にすごく憧れている選手がいたんです。私が入学したとき、その先輩は4年になるので1年間一緒にプレーできると思っていました」

一般受験で入学したが、高校のバスケ部監督が専大のコーチを知っているか

バスケ、そしてお笑いの道へ。 “つながり”を大切に一度きりの人生を楽しむ

「さくらだモンスター」のツッコミ担当として、数々の賞レースやお笑いイベントなどで実績を残しているマサキさん。根っからのバスケ小僧として小学生のときからバスケに打ち込み、専修大学入学後もバスケ三昧の日々を送っていた。そこから、どうしてお笑いの道へ転身したのかを伺った。

ら話しておくといわれていたため、体育会に入って大学でもバスケに打ち込むつもりだった。

ところが、監督が知っていたのは女子バスケ部のコーチで、男子バスケ部は一般生を受け入れていないといわれてしまった。一応、セレクションはしてくれることになったのだが、受験勉強でなまりぎった足腰では、スタメン選手たち相手に目立つようなプレーなどできるはずもなかった。入部できない……この事実を受け入れざるをえないほど、ボロボロの内容だったという。

「バスケ目的で入学したのにいきなりダメをいわれて、放心状態ですよ。これからどうしようかと考えながら第一体育館のあたりをとぼとぼ歩いていました。そこで、バスケサークルの人たちを見て、向こうからバスケに興味あるのって、聞

いてきてくれたんです」

そのバスケサークルで出会った先輩の紹介で社会人クラブチームにも所属するようになる。大学2年次にはバスケットボールサークル日本代表選手として中国へ遠征しており、所属していたクラブチームで「全国青年大会バスケットボール」の全国優勝も経験している。

「学内のバスケサークルが集まって専大最強を競うカップ戦の主催もしたことがあります。専大には当時、バスケサークルがたくさんあったので、みんなに声をかけて、昼休みに試合をするんです。チーム数が多かったので決勝までには3カ月くらいかかりました。その大会を切り盛りしながら選手としても参加して優勝することができました。あれは、いい思い出です」

本当にバスケが好きで、同級生たちが

引退して就職活動をはじめていることにも気づくことなく、一人、サークルに参加し続けていたという。

「後輩たちとバスケするのが楽しかったんです。気づいたら4年の10月になっていて、そろそろ企業へエントリーシートを出した方がいいのかななんて、知り合いのイベント会社の人に相談しました。本当にのんきというか……」

通常、その頃にはほとんどの学生が就職活動をほぼ終えているもの。そのため、相談した人も驚いてしまった。「えっ、もう終わってるよ(笑)」と。マズイ、どうしようと焦っていたら、その人が「ウチの会社に来る？ 社長に話してみるよ」と水を向けてくれた。

そのイベント会社は、各大学にある野球・サッカー・バスケサークルを対象に大会を企画・運営するというビジネスを



大学3年生の春休みに茨城県ひたちなか市で行われたバスケット大会(写真中央)



さくらだモンスターの漫オライヴ。マサキさんはツッコミ、相方のしょっぴーさんはボケを担当する

展開するベンチャー企業だった。

マサキさんが所属していたバスケットチームもその大会に参加しており、たくさんのサークルがある専大には大学担当の社員がついていたのだという。その担当者とは仲が良かったことで相談を持ち掛けたのだった。

「イベント会場で社長にも何度かあったことがありましたし、専大担当の人とは信頼関係もありました。学内バスケット大会を開催した経験から、そういう仕事も向いているかもしれないと思えたので、その会社に入社することを決めました。これもご縁だと思いましたね」

入社するとなった11月からはアルバイトとして働き始めることに。正式に入社してからはバスケットイベントの企画から営業、イベント運営まで幅広く担当。話が上手で、場をなごませることに長けていたマサキさんは、順調に実績を伸ばしていった。関東担当から関西担当、九州担当と担当エリアは広がっていき、2年目で主任に昇格。4年目には課長となり、2部署をまとめる統括リーダーを任されるようになった。

「仕事は楽しかったですよ。学生たちから兄貴のように慕われることもありましたが、付き合う学生もいい子ばかりでしたから。まあ今考えれば、ものすごいブラックでしたけど(笑)」

ところが、社長が病気で仕事を続けるのが難しくなりました。社長がすべてを仕切っていたトップダウンの会社だったため、社員の間には不安が広がっていったそう。



「生のお笑いって本当におもしろいです。ぜひ、校友の皆さんにもお笑いライブや寄席に足を運んで体感してもらいたいです。さくらだモンスターも毎月、浅草の東洋館でお笑い寄席に出ています」

かけてくれた若手たちの気持ちをないがしろにしてしまう……。悩んだ末、どちらも諦めることにしました」

こうして、30歳を前に無職になってしまったのだった。

震災後、石巻へ笑いを届ける

これから何をしようかと考えて、真っ先に浮かんだのが「バスケット」だった。「プロになろうと思ったんです。国内リーグももちろん魅力的でしたが、どうせなら海外でプロとして活躍してみたい、と。イベント会社に勤めながらバスケットはずっと続けていたので、ツテをたどってエージェントに相談しました。すると、ペルーで日本人選手を探しているチームがあるという話を持ってきてくれました」

当時、ペルーには首都リマに16ものプロチームがあり、調べてみると、エージェントが持ってきた案件のチームには、

過去に3人の日本人選手が在籍していた。

ただ、サラリーが安かった。日本円で1カ月6万円ほど。現地ではひと月3万円ほどで十分暮らせるため高給かもしれないが、日本に帰ってきたら家賃も払えない額だ。しかも、日本人は現地で舐められるため、全身にタトゥーを入れたほうが良いという。少なくともワンポイントは入れる必要がある、と。さらに、銃社会であるため撃たれる危険もあると付け加えてきた。

さすがに、リスクが高すぎると判断し、プロバスケット選手の道は断念せざるを得なかった。そして、改めて次のキャリアを模索しはじめたとき考えたことが、冒頭のセリフだった。

「一度きりの人生なのだから好きなことをしよう。何が好きだったんだっけと考えたときに浮かんだのが、お笑いでした」

親にそのことを話したとき、不安定で先の読めない世界へ30手前になって飛び込むことに反対はされたそう。ただ、お笑いの道へ行きたいということに母親は驚かなかったという。子供の頃からひょうきんでお笑い芸人が向いているのかもと思ったことがあったからだ。

「自分で責任をとること、結果がすべて」と小さい頃から言い続けてきた父親も一度反対して決意のほどを見極めてからは何もいわなかった。

お笑いの経験など皆無だったマサキさんは芸能事務所の芸人養成所に通い、そこで出会った同期とコンビを組んで芸人としてデビューすることになる。ただ、1年ほど経ったとき、ある仕事の直前に相方が音信不通になってしまった。その仕事はコンビでネタを披露することになっていたため、一人では乗り切ることができない。

「とにかく焦って、養成所の同期で仲の良かったしょっぴーにピンチヒッターをお願いしたんです」

その仕事が思いのほかウケた。このとき、お互いに好感触を得ていたことで、しょっぴーさんがコンビを解散するタイミングでさくらだモンスター(当時は「とかげベイバー」)を結成することになる。それが、2013年のことだった。



漫才協会へ入会したことで「背負えるものができ、ちゃんとしたものをお見せしないといけない」とプロ意識に磨きがかかったとマサキさん

あのときから10数年、着実に実績を残してきたマサキさんは、最近、専修大学と石巻専修大学の掛け橋になりたいという思いが芽生えてきているという。

「私は石巻に親戚が住んでいるんです。高台だったので震災の被害はなかったのですが、自分にできることはないかと震災から1年ほど経ったときに現地へ行きました。ボランティアとして何でもする気でしたが、物資がないため頼める仕事がないと。それならと笑いを届けてみなことにしたんです。そこで笑ってもらえて、『元気になった、楽しかった』といってもらえたことがすごく嬉しくて」

こんな経験もあり、改めて石巻を意識するようになったマサキさんは、笑いで石巻を盛り上げる目的で開催されているコンテスト「石巻お笑いマスター決定戦」に出場している。このコンテストの特徴は、お笑いの腕前だけでなく、石巻の魅力を紹介するPR動画の出来も評価の対象になるところだ。そのPR動画内で石巻専修大学を紹介したいと考えたマサキさんは専修大学のツテをたどり了承をえて、PR動画の冒頭を石巻専修大学の前で撮影することにした。「この大会で決勝へ進むことができたんです。結局、負けてしまいましたが、決

勝だけ石巻でライブ開催されたので、親戚一同、すごく喜んでくれました。だから、いつの日か石巻専修大学内で『お笑いライブ』を開催したいと思っているんです。私は専修大学の校友で、イベントにも呼んでもらえていますし、石巻にもつながりがあります。そんな自分だからできる掛け橋があると思うんです」

専修大学時代に出会ったイベント会社の社長との縁で社会人となり、しょっぴーさんとの縁でさくらだモンスターを結成するなど、「本当に縁に恵まれている」と語るマサキさん。だからこそ、今度は「専修大学と石巻専修大学をつなぐ縁の1つになりたい」のだと、いい笑顔で語ってくれた。

(2025年5月取材)

さくらだモンスター・マサキ 出演情報	
浅草東洋館「漫才大行進」や月1回開催の主催ライブ「笑タイム」などの情報は こちら から	
取材の様子は、マサキさんのYouTubeチャンネル「マサキのたいぎい〜ch.」で ご覧 になれます	